



南部教育事務所便り「南の風」

令和6年3月14日 南部教育事務所 第12号

子どもの学びの確実な引継ぎをお願いします ～諸調査の結果分析と学びの確認～

先月、令和5年度みやざき小中学校学習状況調査の結果が各学校に送付されました。各学校において結果をもとに「学びの確認」に取り組まれたことと思います。南部教育事務所においても、学習状況や児童生徒意識調査の結果の分析を行いました。また、1月から2月にかけて、管内全ての小・中学校を対象に「学びの確認」応援プロジェクトをオンラインで実施しました。御対応いただきました各学校の管理職の皆様、ありがとうございます。「諸調査の分析状況」「分析結果を踏まえた今後の取組」「次年度に向けた授業改善」について協議しましたが、本年度の取組の確実な引継ぎをお願いします。また、みやざき小中学校学習状況調査（中学校調査）の意識調査では、「ひなたの学び」に関連する質問項目があります。子どもと教師の意識を確認しながら、「学びに向かう力を育む『ひなたの学び』」の具現化に向けて、次年度も引き続き、御協力をお願いします。

- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。
- 生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
- 学習で分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



暖かい南の風を届けたい！！

「マルハラスメント」をご存知でしょうか。令和6年2月16日付けの朝日新聞の天声人語に「マルハラスメント」が紹介されていました。若者世代はSNSのメッセージで句点を「冷たい」と感じるというらしいのです。この話を友人にすると、友人から歌人の俵万智さんのマルハラスメントについての投稿が話題になっていると聞きました。俵さんは「優しさにひとつ気がつく×でなく○で必ず終わる日本語」という短歌をアップされたそうです。

この話題から多面的に物事を見ることの大切さを考えさせられると同時に、句点を用いる一人としては、この短歌に納得したり、日本語の素晴らしさを再確認したりしました。

いずれにせよ、言葉がいかに大切かを深く考えるよいきっかけになりました。

早いもので今年度の教育事務所便りも最終号となりました。私達が教育事務所便りを発行する一番の思いは、「少しでも先生方を元気づけたい」、「学校に暖かい南の風(話題)を届けたい」ということです。毎月わずか1枚の便りではありますが、言葉を大切にしながら職員で分担して執筆することで、教育事務所内でも学校の頑張りを共有し、更なる支援の充実につなげていきたいと考えています。

さて、電車通勤している私は、3月1日(金)いつもは利用しない宮崎南駅で下車しました。丁度その日は、高校の卒業式があり、駅構内に駅員さんの手書きのお祝いメッセージがあったので、引き返して写真に撮りました。文面には「みなさまの元気な姿にお会いできたことに感謝申し上げ、これからのご活躍をお祈り致します。」とあり、駅員さんの日頃の仕事に対する姿勢が窺えました。そう言えば、豪雨で電車が不通になった時に、南駅の駅員さんが親身になって対応していただいたことを思い出しました。

国語の大家である野口芳宏先生は、「幸せは感謝の中にしかない。自分だけの幸福を得ようとすればするほど、意外にもその人は幸せになれず、逆に他者の幸福を願いそのように努める人は案外幸福になっていく、利己よりも利他の心が肝要なのだ。生きとし生けるものはもちろん、空気も光もペンもノートも含めた全てに感謝して生きる。そういう生き方の中にこそ自ずと幸せが生まれるのだ。」と言われます。『心に刻む日めくり言葉 教師が伸びるための野口芳宏師道 さくら社』より引用

3月は別れの季節です。「幸せは感謝の中にしかない。」という言葉の重みがより分かる時期です。様々な喜び、悩み、不安等あったと思いますが、その時々と一緒に喜び、悩み、相談にのってくれた家族、同僚、先輩の存在があったのではないのでしょうか。教育事務所職員も皆様方が子ども達の為に日々、熱心に教育や職務にあたっていることに心の底から感謝しています。今後も未来ある子ども達を育てるために教育事務所の存在があるのだと自覚し、出来ることを一歩ずつ進めてまいります。本年度も大変お世話になりました。次年度もどうぞよろしくお願ひいたします。



文責 副参事補

